

# のびる

53. 9. 1  
第15号  
函館市深堀町  
道南腎協

## (1) 調査の結果(1) 患者構成

### 1. 性別

	人数	%
男	56	66.7
女	28	33.3
計	84	100

### 2. 年齢別

	人数	%
10~19	1	1.2
20~29	20	23.8
30~39	21	25.0
40~49	18	21.4
50~59	12	14.3
60~69	3	3.6
70~79	4	4.8
不明	5	5.9
計	84	100

### 3. 入院別

	人数	%
入院	21	25.0
通院	62	73.8
無回答	1	1.2
計	84	100

### 4. 身障者手帖の等級

	人数	%
一級	75	89.3
二級	3	3.6
三級	2	2.4
申請中	1	1.2
無回答	3	3.6
計	84	100

男女別では男が五六人で全体の三分の二を占め、女は二八人で三分の一である。この比率は全腎協の調査ともほぼ同じであり、全腎協が指摘しているように女性性の透析療法を妨げている困難な条件が依然としてあるのかも知れませぬ。年齢別では、働き盛りの年代が大部分を占めている。平均年齢は四〇・二才。入院別では入院二一人(二五・〇%)、通院六二人(七三・八%)と通院者が六割が多い。函館市の居住地に透析施設がないため、函館の病院に入院している人は十人を超えている。また、函館市以外の地域から通院している人は八雲、南茅部、福島、などから七人もいます。なお、この他に、居住地に透析施設がないため、函館市内に転居した人も決して少なくなく、地域圏内の問題は深刻です。

函館市以外の居住地  
八雲・南茅部・福島・上磯・瀬棚  
戸井・国縫・榎法草・砂原・江差  
島牧・熊石

(2) 透析について

5. 透析年数

	人数	%
一年未満	28	33.3
二年	21	25.0
三年	16	19.0
四年	8	9.5
五年	4	4.8
六年	4	4.8
七年	1	1.2
七年以上	2	2.4
計	84	100

8. 透析の時間

	人数	%
昼	61	72.6
夜	18	21.4
昼・夜	3	3.6
無回答	2	2.4
計	84	100

透析年数別では三年未満が全体の七七・三%を占めている。一週間の透析回数では三回が五人(七〇・三%)。シャントは大部分が内シャントとなっている。また、透析の時間は昼間が六一人(七二・六%)で夜間を上まわりますが、社会復帰を進めたいために夜間透析を希望するものが多い。夜間透析を希望するものが多いが、

6. 一週間の回数

	人数	%
2回	24	28.6
3回	59	70.2
2~3回	1	1.2
計	84	100

7. シャント

	人数	%
内シャント	79	94.0
外	2	2.4
無回答	3	3.6
計	84	100

「高い」とくに公立病院においての意見」

夜間透析についての意見。夜間透析をもっと希望しているが、現在汽車で通院しているのが、仕事の間係上無理。公立病院でも夜間透析を夜間透析のため非常に助かっている。就職率向上のためにも夜間透析施設の促進を主婦なので、日中透析できるのが不便はない。

「病院だより」  
渡辺泌尿器科腎友会総会  
九月三日(日)病院内のトレーニング室で、渡辺泌尿器科腎友会(会長 浅野貞治氏)の総会を開きます。議題は決算報告、役員改選など。会員は是非出席を。

。八月二八日(月) 山本ミキさんが他界されました。山本さんは函館病院入院中、昭和四八年  
函館人工腎臓友の会を創設した人の一人で、渡辺泌尿器科腎友会では会計を担当、患者会活動  
の世話役として、いろいろ御苦労されました。ここに山本さんのご冥福をお祈りするとともに  
私達の透析療法を反省する機会にと思いつき、弔辞を掲載します。

弔辞

山本ミキさん

私達渡辺泌尿器科腎友会一同は、会の創始者の一人であるあなたを失ない、ふかい悲しみに  
つつまれていきます。山本さんは、透析療法の基本原則を厳しすぎる程厳格に守り、食事管理、水分管理にも万全の策をとって  
いました。そのため、心胸比もヘマトクリットも体重増も申し分なく、私達透析患者の  
手本のような人でした。

かえり見れば、不幸にして重い腎臓病を煩い、市立函館病院で透析療法を始めたのが  
昭和四八年四月。当時は人工腎臓のセロハンを自分自身で長時間かけて張りつけたそうですね。  
また、機械の性能もあまりよくなく多くの透析患者が亡くなったことも思い出話として  
よく話されました。好きなたマトモカリウムが上るからといって口にすることなく亡くなった  
人のこと、牛馬を売り、牧場を去る、すべて物の売りを払って亡くなった人のことなど……。  
山本さん自身も自分の腹に抱えつけた外シャントを見てなげなくなり何度も病院の  
窓から飛び降りることを考えたとか、しかし、こんな大きな病院で治療を受けているの  
だからなおらない筈はないと言いつつ、いつかせめて降りるのを留まったとか……。  
私達は今比較的恵まれた情況で透析を受け長らえています。最も苦しい時期を生き抜き  
具さに見てこられた貴重な証人でした。

山本さんは、腎友会の中ではお母さんのようなやさしさで厳しさで多くの透析患者の世話を  
して下さいました。新しい患者に對しては透析療法の要領を、レクリエーションでは  
炊事の世話を、月末になれば会費の徴集を、一つひとつの仕事をしていねいに責任をもち、  
なされました。

会員数が多くなれば、会の運営もいろいろ、難しいことがでてくるのですが、  
山本さんは常に会の発展前進の方向で貴重な意見を提起されました。  
きつとあの苦しい体験をしたときに患者は互いに助け合わなければならぬという  
公理ともいうべく強い信念を体得したからでしょう。

自宅が頼棚（棚）ということもあって、ずっと函館の病院に入院し透析療法に専念していましたが、最近では週末になると自宅へ帰られ、お子様と会うのを楽しみにしていました。入院中も、午後八時になると電話をかけ、その日の出来事を話し合います。少しでも母親としての役割を果そうと努力していました。山本さんのように郡部在住者が家庭復帰するためには、家庭透析とか腎移植とかの方法がありませんが、現実的にはなかなか思いうようにいかず、その恩恵を受けることなく他界されてしまわれたことはかえすがえすも残念です。山本さんにはもっともって生きていたかったです。しかし、この願いもむなしく今永いりれを告げざるをえない時がきました。山本さんの明く厳しい面影はとこしえに私達の胸から消えることはないでしょう。どうか守らぬにおねむり下さい。

昭和五三年八月三十日

渡辺泌尿器科腎友会

◎「のびる」13号のクイズの解答

